

說教良杖集  
下

特35  
844

館	書	館書會育教本日大	
函	六	一	七
架	六	三	函
號	六	架	冊



兒玉寬淵著

# 說教良材集

明治十年二月刊行

東洋書局  
說教良材集下

## 權利義務

權利トハ身ノ行フ所ニ於テ塞ル所ロナク我ニ於テ  
利益ヲ得ルヲ云義務トハ信義ヲ厚クシテ務メテ人  
ニ得ル所アラシムルヲ云コノ權利義務ノ道ハ五倫  
ヲ明ニスルノ常法ニシテ上下左右一切ニ通シテ能  
ク一日モ權利ト義務トナ欠クトキハ人道茅塞シテ  
禽獸ニ異ナル事ナシ先ツ上ノ權利ト云フハ一天ノ



君トナリテ萬民ノ上ニ位シ百官從事シテ朝威ヲ輝  
シ四民各力ヲ勞シ之カ租稅ヲ收入シ之ニ賦役ヲ務  
メシムル是ヲ權利ト云義務トハ有司ニハ月給ヲ與  
ヘ等級ヲ許シ四民夫ニノ職業ヲ許シテ生活上ニ於  
テ差支ノナキヤウ賊盜ヲ防キ不義ヲ正シテ大ニ民  
ノ保護ヲナシ玉フカ上ノ 務ナリ又下ノ權利ト云  
ハ政府ニハ勅奏判ノ官位アリテ名分ノ等級ヲ匡シ  
月給ヲ取テ權限ノ自由ヲウル四民各己カ職業ヲ專  
ラニシテ天ガ下ニ於テ差支ナク我生活ノ自由ヲウ

ル是カ權利ナリ又カ、ル自由ノ權利ヲウルコトハ  
皆ナ悉ク君恩ナレハ形ヲ役シテ租稅ヲ納メ精忠ヲ  
抽テ、公事ヲ務ル是カ下ノ義務ナリ又臣民相互ヒ  
ニ權利義務ノ道アリテ人倫明ナル事ヲウル亭主ハ  
僕婢ヲ朝夕自由ニ驅使スルノ權利アルカ故ニ又ソ  
ノ僕婢ニ給金ヲ與ヘ之ヲ養ヒ惠ムノ務義カナケレ  
ハナラヌ奴僕ハ又給金ヲ取テ養ル、ノ權利アル故  
ニ裏表ナク家事ヲ務テ亭主ヲ敬スルノ義務カ無ク  
レハナラヌ如是ク父子ノ間ニモ夫婦ノ間ニモ兄弟



朋友ノ間タニモコノ權利ト義務トカ互ニ相行ハル  
トキハ人道明ナルコトヲ得ヘシ然ルニ舊來ノ制  
度ノ如キハ諸侯ノ威勢強クシテ下民ヲ抑制シ人才  
アリト云ヘトモ門地ニ非サレハ高官ヲ許サス會議  
ニ參與セシメス官武一途諸民ニ至ルマテ其志ヲ得  
セシメサルカ如キハ權利ノ大過ナリ德川ノ律書ニ  
云足輕體ニ候共輕キ町人百姓ノ分トシテ法外ノ雜  
言等不屈ノ仕方ニテ止ムヲ得ス切殺シ候者ハ吟味  
ノ上紛無之候ハ、搆ヒ無之候事如是ク武威ノ大過

小事ニ依テ人ヲ切殺シテモ搆ハサルニ至ル事誠ニ  
舊來ノ大弊ナラスヤ又公家雨漏リ遊民國ニ充千民  
ニ職權アリト云ヘトモ之ニ悉ク租稅ヲ納メシメサ  
ルカ如キハ權利ノ不及ナリ公政ステニ如是ク權利  
ノ中道ヲ行フ事ヲ得サルカ故ニ下民ニ於テモ亦弊  
害隨テ起リ貸シタル金錢ヲ取ル事ヲ得ス或ハ又力  
ニ任セテ無理取ヲ致シテ喧嘩傷殺等ノ弊害尠ナカ  
ラスタトヘハ妻ヲ教訓シ自由ニ之ヲ給仕セシムル  
ハ夫ノ權利ナレトモツイニ猛威ヲ奮ハシテ之ヲ打



擲シ或ハ是ヲ蹂踐スル等ノ如キハ權利ノ過ナリ又  
一生只女房ノ手鏡ヲ提テ我自由ヲ得サルカ如キハ  
權利ノ不及ナリ又或ハ馬ニ重荷ヲ負セテ出津スル  
カ如キハ馬ヲ飼フ人ノ權利ナレト歸路ニ復ソノ馬  
ニ我身ノ乗テ返ルハ權利ノ過ナリ然ラハ馬ニモ義  
務アリヤト云ニソノ馬ノ驅使セラルハ義務ニ似  
タレトモコレハ馬ノ義務ニハアラス只馬ニ任セテ  
オケハ畜生ハ義務ヲ知ラヌ故ニ只水草ヲ飲食スル  
斗リテ田畑ヲ耕スコトモナク荷物ヲ運輸スルコト

モナシ依之權利義務ハ禽獸ニ異ナル人倫ノ大道ナ  
ルコト炳カナリ乃テ是權利義務ノ中和ヲ行ヒ玉フ  
カ今般御一新ノ良政ナリ殊ニコノ皇國ハ神代ヨリ  
大和國ト名クルハ名アレハ必ス實アリテ和ヲ以テ  
貴トスルノ國柄ナリ推古天皇ノ朝ニ於越前ノ國ヨ  
リ白鹿ヲ獻ス此鹿ノ長八尺ニシテ十七股ノ角ヲ差  
上タリ聖德太子之ヲ相テ曰是靈獸ナリト其十七ノ  
股ヲ改メ玉フニソノ股ノ一ニ自ラ天然ノ文字ノ  
彰ス初二琴ノ字アリ十七番目ノ末ニ鼎ノ字アリ之



四  
ニヨリテ十七條ノ人道ヲ制スルニソノ初ノ琴ノ字  
カ下ノ十六ニ冠スル琴ハ樂器ニシテ人心ヲ和クル  
ヲ義トス權利テアレ義務テアレ五倫テアレ五常テ  
アレ忠孝テアレ能ク和ヒテ中道ヲ行ハサレハ過不  
及ノ失アリテ人道ツイニ紊ル東都日光山ニ於テ上  
ノ間ニハ家康公次ノ間ニハ諸侯方カ相詰メ色ニ世  
熊樹木ノ話杯アル中ニ此世界ニ若金ノナル樹カア  
リタラハ調法ナル事テアロフト話シノ内ニ上ノ間  
ニ御座ル家康公サラニト紙ニ三枝ノ木ヲ書テユ

レカ卽ソノ金ノナル木シヤト次ノ間ニ差出サレタ  
夫ニ又諸侯方カ六本ノ小枝ヲツケテ九朶ノ金ノナ  
ル木ガ出來タコトアリソノ家康公ノ書タ三枝ノ木  
ト申スハ右ノ方カ正直左方カ慈悲フカキ眞中ノ心  
木カ萬ツホトヨキト云木千ヤユノ正直ハ智慧ヲ以  
テ善惡邪正ヲヨク照シテ天ノ正理ヲ行フコト慈悲  
フカキハ卽仁德ニシテ已レテ忘レテ人ヲ愛憐スル  
コト此智慧ト慈悲トガカタヨラスカタニヨラス  
シテ過不及ナキヤウニ中道ヲ行フカ萬ツホトヨキ



ナリ上下貴賤君臣父子夫婦兄弟各其所ヲ得テ和樂  
シテ且耽ムカ人道ノ至極ナリ喩ヘハ佛前ニ捧ケル  
立花ノ如キハ眞中ニ心ヲ立夫ヨリ小心見越受控胴  
前置トツリ合カ定マリテアル夫ヲ不調法ナル立方  
ヲシテ胴ガ高過ルカ又受ガアマリ出過キルカ控カ  
細ヒカナリ場カ千カフテカタヨルト高机ニ居ヘタ  
時ニコロリト花甄カ倒ケルソノ柏子ニ輪燈ノ皿カ  
飛テ打敷ニ油カ掛ル香爐カ落テ灰タラケニナル蠟  
燭立カタナレテ内陣中ヲコロミミト倒ケ回ル如此

騷動ノ起タ根本ハ立華ノ受カタツタ一本倚タ斗リ  
ナリ各方ノ一軒ノ家モ親ハ親ノ居リ場所アリ子ハ  
子ノ居リ場所アリ夫婦兄弟ミナ各ソノ所ヲ得テ五  
倫ノ道カ正フナル然ルヲ嫁カ婿斗リニカタヨルト  
大切ナル姑ニ義理ヲ失フ婿カ嫁斗リニ偏タヨルト  
恩アル親ニ不孝ニナル姑カ我子斗リニ偏タヨルト  
義理アル嫁ニ當リカ惡フナルソコテコノ人倫ノ道  
ト云ハ遠キ處ニ求ルニアラス親ハ親ヲシウ子ヲ憐  
ミ子ハ子ヲシウ親ニ孝行ヲ盡シ兄ハ兄ヲシウ弟ハ



弟ヲシウ萬ツ程ヨク和合シテ行クトキハ家繁昌ハ  
疑ヒナシ之ヲ金ノナル木ト云フ御高札ニ人タルモ  
ノ五倫ノ道ヲ正クセヨト仰セラレタハ皆夫ニノ居  
リ場所ヲ忘レヌ様ニ致セトノコトナリ家ノ内ニハ  
タツタ一人心得違ヒカ出來ルト親ハ理屈カ過キテ  
無理オサヘニナリ嫁ハ言譯ヲシテ辭カ多フナリ婿  
ハカンシヤクニナリテ物ヲ投ケ道具ヲ打破ルト遂  
ニハ召使ノ者マテカブスニ云テ家事ヲ怠ル様ニ  
ナルタツタ一人我居場ヲ忘レテカタヨリタ斗リテ

家内中ガミナガタ付テ遂ニ破レ内輪トナルコノ破  
内輪カ世ニ所謂ル貧乏神ノ御神體シヤ家康公コノ  
萬程ヨキヲ金ノナルキト云ハレタハ實ニ名將ナリ  
何ント各上ミ下ニユノ權利義務ノ人道カ過不及  
ノナキヤウニ程能ク明カニ行ハレ信義ヲ以テ有無  
通販シ和合ヲ本トシテ家内睦シク臣民互ニ幸福ヲ  
得テ外ハ萬國ノ耻辱ヲウケス内勤王ノ精忠ヲ抽テ  
、自主自由ノ權利ヲ專ラニセハ天地神明ノ冥助ヲ  
蒙リ現世ノ利益疑アルヘカラス



### 萬國交際

萬國トハ海外ノ諸國ヲ指ス今條約ノ國カ御一新前  
二十一ヶ國アリ御一新後ニ五ヶ國アリ合シテ十六  
ヶ國ヲ束子テ交際ノ國トス交際トハ有無通販シ及  
征伐議事等ノ音信相通スルヲ交ト云際トハ各國別  
性ノ國體有テ其水際ヲ立テ、而モ互ニ相妨碍セヌ  
様ニ交リ附合ヲスル事ナリ所謂ル和シテ同セサル  
者也從來皇國ハ獨立不羈ニシテ國事産製渾テ外國  
ニ關セス唯長崎ニ於テ賣船ノ入港ヲ許ス斗リニテ

而モ國大ニ治ル然ルヲ當今ニ至リ萬國ト交際スル  
モノハ云何トナレハ一ニハ是即千時勢ノ變天理自  
然ノ然ラシムル所ニシテ人力ノ致ス所口ニ非ス二  
ニハ從前ハ既ニ海外ヲ名テ天險ト云天險トハ大平  
洋及印度洋ノ如キハ都テ航海ノ術ノ堪ヘサル所口  
ナレハナリ然ルヲ今ヤ西洋人力メテ知識ヲ開キ蒸  
氣船等ノ窮理アリテ無風ノ大洋ヲモ船ヲ航シテ万  
里ノ遠キヲユト、モセス之ニ依テ昔ノ天險カ却テ  
今ノ坦路トナリテ數萬里ノ國モ猶シ隣國ノ如ク厚



誼ヲ以テ廣ク交リ大ニ互市場ヲ開テ各國ミナ野心  
ヲ去リ利ヲウコト盛ナルノ時日本豈獨リ其間タニ  
介居スヘケンヤ三ニハ有無相易スルハ人道ノ常法  
ナリ山村薪炭ヲ運ヒ江村鹽魚ヲ市スル田野楮茶ヲ  
輸出シ市街ニ至テ酒油ヲ買フ等ノ利之ヲ擴ムルト  
キハ遂ニ各國ノ交易ニ及ンテ始テ人間ノ大利ヲ得  
ヘシ地理ニ隨テ產製品ヲ異ニシ年ニ豐凶アルコト  
彼此同シカラス米價自ラ貴賤ヲ別ツ此國豐年ナレ  
ハ米穀ヲ輸出シテ大ニ金ヲウル此國凶年ナレハ彼

國ヨリ忽マ千米麥ヲ輸入シテ大ニ人命ヲ助クルコ  
ト少ナカラス殊ニ此日本ニ於テハ數百年來遊惰ニ  
耽リテ只口ニ常ニ神國ノ靈ヲ說ノミニシテ我有ス  
ル所ノ靈ヲ研クコトヲ知ラス然ルニ彼西洋ノ國ニ  
於テハ大ニ知識ヲ擴充シテ事物ノ理ヲ窮メ種々便  
利ノ器械ヲ製造シテ人勞ヲ助クルコト少ナカラス  
是ヲ以テ今般其利器ヲ採用シテ此國ノ便利ヲ得ル  
コトハ皆人ノ知ル所口ナリ有無交易ハ各國互ニ利  
ヲ得ルコト必然ナリ然ルニ此國ニ於テハ更ニ又彼



國ノ機械ヲ採用シテ用辨ヲ利シ知識ヲ發明スル事  
ハ彼國多年ノ窮理ヲ一瞬間ニ學ヒ彼國數百年ノ開  
化ヲ半世ニ成ス事誠ニ今般萬國交際ノ大利益ナラ  
スヤ然リト云ヘ凡先帝ハ攘夷ニシテ今上ノ和親シ  
玉フハ先帝多年ノ震憂ヲ解サルニ似タリ是レカ大  
ニ庶民ノ怪ム所ロナリ云何ト云ニ今諭シテ云ソノ  
先帝ノ攘夷ト云ハ外國人陰ニ野心ヲ狹ンテ我國ヲ  
奪ハントシ或ハ誑惑シテ此國ノ米金ヲ掠ントスル  
ノ夷ヲ攘フコトナリ又今上ノ和親ト云フハ信義ヲ

以テ有無通販シ賊心ヲ去リテ安危ヲ共ニセントノ  
國ニト和親スル事ナリ先帝ト云ヘ凡賊心ナクシテ  
信義ヲ結ブノ國ナレハ必ス和親スヘシ今上下云ヘ  
トモ賊心ヲ以テ我國ヲ奪ハントスル國ナレハ乍チ  
打攘フヘシ銀行ノ新紙幣ハ蒙古ノ敗軍ヲ圖スルヲ  
以テ知ルヘシ之ニ依テ之ヲ見レハ先帝ノ攘夷カ即  
チ今上ノ攘夷ナリ今上ノ和親カ即チ先帝ノ和親ナ  
レハ何ノ怪ム所カ之アラシヤ夫既ニ如此外國ト和  
親條約ヲ結フトキハ一新ノ制度モ古今ヲ斟酌シ西



洋ノ實踐ノ法ヲ取捨シテ百度皆改ル萬國交際ノ盛  
時ニ於テハ身ハ何レノ國ニ至リテ生活ヲ致ソウト  
モ心一ツハ日本ノ靈徳ヲ失ハヌ様ニ各早ク敬神ノ  
誠意ヲ貫キ皇上奉戴ノ精忠ヲ抽テ、吾身ニミノ守  
ル所ロノ一心カ定ラテハ提燈ニ火ノ燃レヌ様ナモ  
ノナリ印シモ付キ定紋ヲモ付ケテアレトモ火ノ消  
タ提燈テハヤハリ足元ハ暗ガリシヤ我ハ日本人デ  
ヤ我ハ何宗ノ門徒シヤ何社ノ氏子シヤトイカホド  
臂ヲ張テモ心ロニ守ル所ロノ一心カナケレバ形計

リカ日本人ニシテ心ハ日本人ニ非スソコテ日本ト  
云印シテ付ケ何宗ノ門徒ト云定紋カ付タナラハ中  
ニ一心ノ火ヲ燃シテ人道ヲ明ニシ人魂落着ノ見通  
シテ付心ニ塞ル所ナケレハ種々ノ異學異見ニ煽動  
スル有可ラス兵法ニ曰無恃其不來恃吾有以待之無  
恃其不攻恃吾有所不可攻也世界廣シト雖凡人アレ  
ハ必教法アリ教法アルキハソノ教化ヲ受クル者ニ  
守ル所ノ一心ナキ事能ハス若守ル所ノ誠信ナクシ  
テ我國ヲ自負シテ第一ト想シ我宗ヲ名テ正法ト云



ト雖其特所只彼不來ニ在テ我ニ在ラスンハ猶シ城廓ヲ全シテ兵備ナキカ如シ豈危カラサランヤ歌ニ牽カレラハ惡シキ道ニモ入ヌヘシ心ノ駒ニ手繩ユルスナ又古語ニ水ハ方圓ノ器ニ隨ヒ人ハ善惡ノ友ニ由ル人心ハ水ノ如シ又放駒ノ如シ善ク之ヲ導テ死生ノ道心ヲ生セシムルヲ善知識ト名ク是ヲ以能ク善知識ノ教ヲ信シテ死生ノ道ヲ決スルキハ彼外教ノ侵入セサルヲ特マズ曾テ侵入スル事能ハサルヲ特ムナリ之ヲ金剛ノ一心ト名ク此ノ一心又死生

ノ道ニ於テ更ニ相妨碍セス孝ト云ヘハ親ニ一心貞ト云ヘハ夫ニ一心忠ト云ヘハ君ニ一心來世識神ノ趣ク所ハ其宗ニニ一心ヲ決定スルキハ死生ノ道路明カニシテ闇夜虎狼ノ憂アルヘカラス人唯生ノ道ヲ知テ未タ死後ノ道ヲ決セサレハ彼外教天獄ノ說モ時ニ臨ンテ其誘導ヲ受サルヘカラス之ニ依テ宗教ノ說脈恒ニ世教ヲ分離セス世教ノ起原必宗法ヨリ之ヲ垂ル、キハ世教豈之ヲ遠キニ求ンヤ逆惡攝取ノ弘誓ヲ信受スル處ニ却テ小罪ヲモ犯ス可ラ



カルノ理アリ此理ヲ後ニノ行門ニ開テ五惡五善ノ  
勸懲善ク世教ト合シテ思孝ノ道義日日ニ上進スル  
キハ死ヲ決テ生ヲ全スル故ニ親族相和シテ報恩ノ  
行業ト共ニ産業ヲ勉勵セン事豈樂カラサランヤ

正誤

上卷五丁經ハ論十三丁彼ハ役廿一丁魂ハ性廿四丁  
杯ハ杯廿九丁岡ハ岡卅三丁綿木ハ木綿卅六丁政ハ  
祭ノ誤下卷一丁左上ノ(ノ下義)ヲ脱ス  
由企望製本迅速云云自餘ノ七款貽之于他日重刊矣

明治七年八月  
明治十年一月廿二日  
同年二月

編輯 御届  
發兌定價七三錢

著者

福岡縣平民

兒玉寬洲

出版人

福岡縣平民

蜂谷進輔

豊前國第大區小區小倉島町十五百七十一番地  
豊前國築城郡福岡村

佐野長七

大坂心齋橋博愛町角

岡田茂兵衛

弘通書肆



